資料２

平成 28 年●月

（案）

酒田コミュニケーションポート（仮称）整備基本計画

知（地）のアリーナ

山形県酒田市

（H28.12.26 現在）

（10 代　女性　冬・平日の一日）

朝、友達と学校に行く。学校で授業を受ける。16 時半に学校を出て、ライブラリーセンターの中にあるオシャレなカフェで友達とおしゃべりして、1 時間ほどしたら、近くのラーメン屋で夜ご飯としてラーメンを食べる。（ライブラリーセンターに駅周辺のラーメンガイドがあるので、それを見て行く。）

ラーメンを食べた後、ライブラリーセンターに戻り、友達と終電まで一緒に教え合いながら勉強する。

電車が発車する 15 分前にライブラリーセンターを出てみると、クリスマスシーズンなので、赤、緑のイルミネーションがきれいで、友達と写真を撮って帰る！

（40 代　男性　休日の一日）

今日は妻が友達とランチに行くということなので、6 歳の娘と 2 人でデート（子守り）。なるべく節約したいので、ライブラリーセンターに出かけた。

子ども図書を選んでいると、子どもコーナーで紙芝居の読み聞かせをしていて、娘も興味を持っていた。聞くと 3 歳以上は、コーナーに置いていっていいらしい。娘をコーナーに置いて、自分は大好きな作家の小説を探しに行く。本を持って子どもコーナーに隣接した読書コーナーでゆっくり本を読んだ。隣の子どもコーナーからは笑い声が聞こえる・・・。30 分経過・・・。

お昼になったので、コンビニでおにぎりを買って、広場の芝生に座って娘と食事。午後も紙芝居があるらしく、午後 3 時までライブラリーで過ごした。

ゆっくりした幸せな一日だなぁ・・・。

あなたが、将来酒田コミュニケーションポート（仮称）で過ごす

ある一日のストーリー

（60 代中頃　男性　今から 10 年後）

小春日和の日、よちよち歩きの孫を連れて酒田コミュニケーションポートに出かけた。

広場には、子どもたちを連れたお母さん、お父さんたちが、たくさん。思い思いに子どもを、そして親同士が楽しんでいる。私も混ぜてもらうことにしよう。

しばらくして、気になる新刊を探しに図書館へ。その途中、岸洋子、成田三樹夫の映像が流れていた。若いお父さんに、「この人、誰？」「かっこいい」と言われ、説明する。それをきっかけに、本や雑誌を数冊借り、数人で好きな飲み物を片手に酒田トーク。いつの日か再会を誓って、帰宅。

（30 代　女性　ある休日）

近く、遠方から友人が酒田に遊びに来るので、最近の最新観光情報を知りたくて、コミュニケーションポートを利用。最新のおススメツアーなど（体験型で酒田を楽しめる）の情報を観光情報センターで教えてもらい、酒田に来て 10 年が経つ自分自身も満足する。新しい酒田を発見！

併設されている産直・物産コーナーをぶらぶら見ながら、まずはライブラリーセンターへ、しばし読書。気に入った図書を借りる。

帰り際、先ほど見た産直コーナーで、夕飯の食材（地元産）と新作の日本酒（試飲して気にったもの）を購入。カフェで図書を読みながら一服して、帰宅。

※第 3 回市民ワークショップの最後に、将来酒田コミュニケーションポート（仮称）でどのように 1 日を過ごしたいかを参加者に考えてもらったストーリーの一部です。

目　次

はじめに 3
1　これまでの経過 4
(1) 施設整備の経緯 4
(2) 酒田コミュニケーションポートの整備の方針 6
2　基本計画策定の目的 7
3　基本計画の位置付け 8
(1) まちづくり全体に関わる計画 8
(2) 関連する主な個別計画 9
4　本市の現状 15
(1) 地勢・交通 15
(2) 人口 15
(3) 歴史・文化 17
(4) 産業・観光 17
(5) 教育 18
(6) 広域圏形成 18
5　市立図書館・酒田駅前観光案内所の現状・課題 20
(1) 市立図書館 20
(2) 酒田駅前観光案内所 22
6　市民意見等の状況 24
(1) 市民アンケート調査結果 24
(2) 高校生アンケート調査結果 29
(3) 市民ワークショップ結果 30
(4) 高校生ワークショップ結果 34
(5) 各団体等意見交換結果 35
7　基本理念 37
8　基本方針 38
9　機能別サービス、整備方針 39
(1) ライブラリーセンター 39
(2) カフェ 48
(3) 観光情報センター 49
(4) 広場 51

(5) 駐車場 52
(6) バスベイ 53
(7) その他 53
10 施設計画 54
(1) 施設整備の基本的な考え方 54
(2) 施設全体の構成・計画に対する留意事項 54
(3) 地域産業支援基本方針に基づく整備の推進 57
(4) 施設各機能の計画の留意事項 57
11 管理運営計画 59
(1) 開館時間及び休館日 59
(2) 運営組織 61
(3) 運営形態 62
(4) 事業計画及び評価 62
(5) 民間施設、周辺関係機関等との連携 62
12 人材の確保及び育成 63
13 市民とともに歩み、成長していく施設づくりを目指して 64
14 事業スケジュール 65
資料編 66

まちの再生のシンボルとして

～酒田の新しい船出がここから始まる～

本市の市街地域における人口総数（国勢調査）は、昭和 10 年代後半以降増加し続け、合わせて世帯数も増加し、これに伴い昭和 30 年代後半から市街地の拡大、宅地の拡大が進展していきました。人口総数は平成 7 年がピークとなりましたが、世帯数は、平成 22 年においても、なお伸び、区画整理は平成 17 年まで続きました。

この間、まちの広がりとともに、道路を中心したインフラ整備も進み、商業環境も大きく変化していきました。酒田駅周辺地区では、平成 9 年に大型商業施設の旧ジャスコが撤退し、酒田の玄関口（顔）といえる場所が、現在に至るまで未利用地として存在しています[1]。

これまで、当該未利用地の民間事業者による開発事業が 2 度計画されましたが、実現に至らずにいます。また、全市的な共通課題でもある少子高齢化・人口減少社会が、当地区でも急激に進展し、商店街の空き店舗数も増加し、来街者に、まちの停滞、空洞化を印象づけるものになっていると考えられます。

このような状況を打開し、また、将来にわたり持続するまちづくりへ資するため、旧ジャスコ跡地を中心とする区域において、公共施設（酒田コミュニケーションポート（仮称））の導入を決定し、平成 28 年 7 月には、全国公募により再開発の事業予定者を決定したところであります。

今回の官民複合施設による再開発は、まちに新たな価値を創出し、市民の暮らし・生活の豊かさを実現し、また、酒田駅周辺地区の活性化、中心市街地の均衡ある発展、まちなかへの回遊性の向上等の起爆剤となるまちの再生のシンボルになりたいと考えています。

本市は、長い歴史の中で、湊町酒田として築かれてきた風土があり、「進取の気性（精神）」「公益の心」が息づいていると言われ、まさしく、今回の整備において、その精神・心が求められるものと思います。先人に恥じぬよう、また将来世代へ受け継いでいく責務を持って進めなければなりません。

本書は、今回の再開発で整備される公共施設が、市民に愛され、ともに成長していける施設として実現していくための羅針盤となるため、酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画（以下「基本計画」という。）として定めるものです。

---

[1] 平成 26 年からは、暫定駐車場として開放している。

1　これまでの経過

(1) 施設整備の経緯

平成９年に旧ジャスコが撤退して以降、当該跡地については、２度にわたる民間事業者による開発事業が実現に至らず、未利用地となっていました。

（酒田駅周辺地区グランドデザイン（平成 26 年度））

そうした現状を脱却するべく、平成 26 年度に、市が主体となって、学識経験者、市民代表等からなる「酒田駅周辺地区グランドデザイン検討懇談会」等から意見を伺いながら、酒田駅周辺地区（約 9.0ha）の将来のあるべき姿を再整理し、整備に関する方針を明らかにするため、「酒田駅周辺地区グランドデザイン」を策定しました。

当該地区は、中心市街地の他地区と同様に人口の減少と高齢化が進むとともに、空き地や空き家が目立つようになってきています。また、建物の老朽化も進んでおり、緊急車両の通行が難しい細街路も多いことから、災害に対する脆弱性も懸念される状況になっています。

さらには、駅周辺の交通結節機能の分散（駅とバスターミナル）や駅前広場における各機能の充実等の課題を抱えており、公共交通機関の利便性が高い駅前の魅力を生かすことができていません。

このような中、当該地区の求められる機能として、「玄関口機能」「交通結節機能」「市民にぎわい交流機能」「まちなか居住機能」の４つを掲げ、目指すまちづくりの基本理念を「観光起点＋市民の憩いの場」と定め、当該地区を起点にまち全体が有機的につながり、来街者、市民がともに回遊を生み出し、それがまちの魅力と利便性を向上させ、「ひと」で賑わう空間を形成していくと位置付けました。

旧ジャスコ跡地と隣接街区の整備の方針としては、「土地活用は空洞化の解消という意味において喫緊の課題であり、市民からの有効活用が強く求められている。また、隣接する街区にある老朽化した高層建築物等を含めた整備の検討も必要なエリアである」との評価を行い、「市民生活の利便を高め、にぎわいと交流を向上させる機能を担う「市民にぎわい交流機能」を中心に短期整備をする」としています。

また、事業実施にあたっては、官民複合施設を想定していくこととしました。

酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念　「観光起点＋市民の憩いの場」

【図１】酒田駅周辺地区（酒田駅周辺地区グランドデザインでの位置付け：9.0ha）

（対話型市場調査、整備計画方針（平成 27 年度））

これを基に平成 27 年度には整備事業への参加意欲のある民間企業を対象に、実現可能な事業化プランを求め、意見交換を行う対話型市場調査を実施しました。そして、当該調査結果等を踏まえ、本市における行政課題、財政負担、市民の利便性向上、持続可能なまちづくりなど多方面が検討を行い、ライブラリーセンターを中核とした公共施設（酒田コミュニケーションポート（仮称）（以下単に「酒田コミュニケーションポート」という。））の導入を決定し、その他整備区域、事業手法及び公共施設購入基準額を盛り込んだ「酒田駅前整備計画方針」（以下「整備計画方針」という。）を定めております。

（事業者募集（平成 27～28 年度））

この整備計画方針に基づき、第一種市街地再開発事業を基本として、事業の実施主体となる民間事業者を募集し、提案内容の公開プレゼンテーションや市民アンケート等を踏まえ、平成 28 年 7 月に事業予定者を西松建設株式会社に選定しています。

今後、市、事業予定者及び地権者での基本協定締結や都市計画決定、設計等を経て平成 32 年度の工事完成を目指していくこととなっております。

(2) 酒田コミュニケーションポートの整備の方針

整備計画方針において、酒田コミュニケーションポートの施設コンセプトとして、次のとおりとしています。

人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、
新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点

導入する機能の整備目的と整備内容は、次のとおりとなっています。

機　能	整備目的	整備内容
ライブラリーセンター	・未来を築く人財育成、交流支援機能の充実 ・多様な読書スタイルを提供し、多様なニーズへの対応＜学びの場、子育ての場、交流の場、情報発信の場＞	・床面積 3,000 ㎡を基本として整備 ・カフェや憩いの場等として、別途 200 ㎡を基本として整備 ・蔵書数は、30 万冊（開架 20 万冊、閉架 10 万冊）を参考規模として想定
観光情報センター	・駅前の観光案内、情報発信機能の向上	・100 ㎡を基本として整備
広　場	・駅前にはイベント等に活用できる空間がない ・景観形成や憩いの場として	・1,000 ㎡を基本として整備
駐車場	・公共施設利用者及び駅周辺への不特定多数利用者用	・整備駐車台数のうち 200 台
バスベイ	・交通結節点機能強化のため、駅前バス停を集約	・旧ジャスコ跡地の北側（県道沿い）に整備

なお、ライブラリーセンターは、現中央図書館機能も引き継ぐものとし、また観光情報センターは、現駅舎内にある観光案内所を移転・強化するものであります。

2　基本計画策定の目的

○酒田コミュニケーションポートの具体化のため、必要な機能やサービスのあり方等について定めるものです。
○将来に向けた羅針盤であり、将来の世代への約束・宣言書となるものです。

本基本計画は、酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念や、整備計画方針で定める目指すべき酒田コミュニケーションポートの具現化のため、必要な機能やサービスのあり方等について定めるものです。

なお、策定にあたっては、様々な機会を捉えて幅広く市民からも参画していただき、そこで出された意見等も参考としながら、取りまとめたものです。

本書では、特段、計画期間は定めていません。だからと言って、施設が完成したら基本計画の役割も終わりということではありません。目指そうとしているまちづくりは、施設が完成したからと言って、即座に実現するものではなく、完成後も絶え間ない試みを継続していかなければ、達成できません。

また、少子高齢化・人口減少社会の進展や技術革新等により、将来に渡って市民ニーズは益々多様化し、その時代時代で、酒田コミュニケーションポートの役割に変化が求められ、それに柔軟に対応しながら、目的を見失わず、市民に愛される施設として持続していく必要もあります。

そのためにも、本書は、その羅針盤としての役割を果たし、また、将来の世代への約束・宣言書となるものです。

3　基本計画の位置づけ

(1) まちづくり全体に関わる計画

○本市のまちづくりの課題を解決し、目指す将来像の実現に資するため、酒田コミュニケーションポートの整備・運営を進めて行きます。

①　酒田市総合計画

1市3町による合併後の平成19年9月に策定された「酒田市総合計画」（計画期間は、平成20年度から平成29年度まで）では、「雇用の拡大」と「人口減少の抑制」を最重要課題と捉え、基本理念と都市の将来像を、次のとおりとしています。

＜基本理念＞
　心豊かに健やかで未来に向かうまちづくり　【人】
　誇りと信頼にあふれる協働のまちづくり　【ふるさと】
　創造が世界に広がる活力あるまちづくり　【交流】
＜将来の都市像＞
　人いきいき　まち快適　未来創造都市　酒田

この実現のため、施策の大綱（8つの柱）として

・公益の心を育むまち　・潤いと美しいが広がるまち
・元気があふれるまち　・賑わいと活力に満ちたまち
・地域力が高いまち　・明日を拓く交流のまち
・安全と安心を実感できるまち　・市民のための質の高い行財政運営

を定め、選択と集中の視点のもと、「雇用創造」「市民元気」「個性創造」「まち快適」を4つの重点プロジェクトとして推進してきています。

計画策定から5年経過した中間見直しにおいては、「人口減少、少子高齢化対策」を市の最重要課題と位置付けています。

なお、現在、平成30年度からの次期酒田市総合計画を策定作業中ですが、本基本計画で定める目標や方針との整合性を図ります。

②　酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

酒田市総合計画を基本に、平成27年10月に策定された「酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、酒田市人口ビジョンに掲げた人口の将来展望（2060年の段階で7万5千人程度）を実現していくため、次の4つの基本目標を掲げています。

Ⅰ．“働きたい”がかなう酒田をつくる
Ⅱ．酒田への新しい人の流れをつくる
Ⅲ．“結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる
Ⅳ．“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる

これらの計画及び戦略は、本市の将来を展望する上で最も重要なものであり、駅周辺整備事業や酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業も、これらの計画及び戦略を実現するための施策として位置付けられているところです。酒田コミュニケーションポートの目指すべき方向性、あり方（必要な機能やサービス等）については、これらの上位計画の基本理念等の実現を基本としていくこととなります。

(2) 関連する主な個別計画

○各分野の施策と連携しながら、酒田コミュニケーションポートの魅力づくりを行っていきます。

酒田コミュニケーションポートを構成する機能である「ライブラリーセンター」「観光情報センター」「駐車場」「バスベイ」に関わる個別計画として、次のものがあります。

酒田駅周辺地区のまちづくりや酒田コミュニケーションポートの最終的な目標は、基本計画に基づく展開のみで実現できるものではありません。

厳しい市の財政状況や限られた資源配分を考えれば、自ら単独としてではなく、様々な分野と連携し、有機的に交わりながら、オール酒田を意識し、推進していく必要があります。中心市街地活性化分野、観光分野、公共交通分野等、それぞれが発展していくことが、酒田コミュニケーションポートの更なる活性化にも繋がり、それが魅力的な施設運営になると考えます。

様々な分野とのネットワークを積極的に構築して、進めていきます。

① 酒田市中心市街地活性化基本計画

【中心市街地活性化 × 酒田コミュニケーションポート】

平成 27 年 3 月に策定された「酒田市中心市街地活性化基本計画」（計画期間は、平成 27 年度から平成 31 年度まで）では、「湊まちルネッサンス（再興）－湊のにぎわいと交流のあるまちづくり－」を基本理念に、「にぎわいあふれる商業のまち」「訪ねて楽しい観光のまち」「市民が集う交流のまち」の 3 つの基本方針の実現を目標としています。

事業推進にあたっては、中心市街地内に５つの拠点エリア（駅周辺、山居倉庫周辺、中町、港、日和山・台町）を設定し、拠点エリアごとの特色を活かした整備を進め、拠点エリア間の回遊性の向上を図り、相乗効果によるにぎわい創出を図るとしています。

◆関連する主な取組み内容
・駅周辺エリア
　ＪＲ酒田駅を中心とした地区である。長年、本市の大きな課題となっている大型商業施設跡地、駅前広場、駅舎を含め、本市の玄関口としてふさわしい駅前地区を目指した整備を図っていく。
・回遊性向上の推進
　５つの特色ある拠点エリアを有機的に結び付け、相乗効果を図ることを目的に各エリアの回遊性の向上を図る事業（中心市街地循環バス運行事業、街なかサイン整備事業、観光用自転車運行事業等）を積極的に展開していく。

②　酒田市教育振興基本計画　　【教育　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 22 年 4 月策定の「酒田市教育振興基本計画」（計画期間は、平成 22 年度から平成 31 年度まで）では、次の３つの教育目標を定めています。

・「いのち」を大切にし、健やかな体と心を持つ人をはぐくむ
・「まなび」を通して、自立する人をはぐくむ
・広い「かかわり」の中で、郷土を愛し、公益の心をもって社会に貢献する人をはぐくむ

◆関連する主な教育施策内容
○基本的方向　世代を超えてまなびあう
○図書館活動の充実
○図書館機能の充実＜図書館＞
　・年齢・性別・月別等のデータを分析し、個別需要に応じた適切な選書
　・多方面での情報収集により郷土資料や本市出身の作家関係資料の収集
　・中央図書館、各分館、ひらた図書センターや東北公益文科大学メディアセンターとの連携により、市民の要望への対応、利便性の向上
　・図書館施設の整備の検討
　・展示スペースの拡大、来館者に新鮮な情報提供、利用者のスキルアップを目的にした講座の開催
　・高齢者や視覚障がい者への利用拡大のため、大活字本や朗読ＣＤのさらなる充実
　・雑誌スポンサー制度を導入して、企業の宣伝と社会活動の場の提供と雑誌閲覧の充実

③　酒田市生涯学習推進計画　【生涯学習　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 25 年 4 月策定の「酒田市生涯学習推進計画」（計画期間は、平成 25 年度から平成 31 年度まで）では、「「いつでも」「どこでも」「だれでも」　つなげよう

学び 公益の心 拓こう明日の酒田～学びの扉を開けてみよう～」をキャッチフレーズとし、次の３つの基本目標を定めています。

・『人づくり』・・・学びで高めよう公益の心
・『仲間づくり』・・・学びで広げよう仲間の輪
・『地域づくり』・・・学びの成果をつないで興そう地域コミュニティ

◆関連する主な施策の展開
・人材の活用と育成
・高度情報化等利用者ニーズへの対応
・乳幼児期：親子でのふれあいをはぐくむ機会の充実
・少年期：「生きる力」をはぐくむための学習機会の提供
・地域生涯学習関連施設の有効活用

④　酒田市子ども読書活動推進計画

【子ども読書　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 28 年３月策定の「酒田市子ども読書活動推進計画」（計画期間は、平成 28 年度から平成 32 年度まで）では、次の基本方針を定めています。

・幼少期に身に付けた読書習慣を生涯にわたり継続できるよう支援する
　1　子どもたちの身近に本があること
　2　子どもたちの身近に本に親しむ場所があること
　3　子どもたちの身近にいる大人たちが、子どもと本をつなぐこと

その中で、新重点施策として「「読書手帳」を活用しよう」「「家読（うちどく）」をはじめましょう」を打ち出しています。

◆４つの施策体系
・家庭における読書活動の推進
・保育園・幼稚園等における読書活動の推進
・地域における読書活動の推進
・学校における読書活動の推進

⑤　酒田市子ども・子育て支援事業計画（酒田っ子すくすくプラン）

【子育て　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 27 年３月策定の「酒田市子ども・子育て支援事業計画」（計画期間は、平成 27 年度から平成 31 年度まで）では、基本理念として、家庭、地域、社会が全体で、次のことを目指すとしています。

・すべての子どもが大切にされ健やかに成長できるまち
・子育てに喜びや生きがいを感じられるまち
・子どもを生み育てやすいまち

その上で、次の２つの目標を設定しています。

・【子どもの姿】　生きる力と豊かな心で　たくましく未来をつくる　酒田っ子

・【まちの姿】　家庭　地域　社会　みんなで支え育むまち　酒田

◆関連する主な施策方針
・子どもと保護者の居場所づくりの推進
・子どもの生きる力の育成に向けた学校等の教育環境の整備
・家庭や地域の教育力の向上

⑥　酒田市中長期観光戦略　　【観光　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 28 年 3 月策定の「酒田市中長期観光戦略」（計画期間は、平成 28 年度から平成 37 年度まで）では、次の 7 つの方針を定めています。

・「これなら人を呼べる酒田の“ウリ”」の確立
・既存観光資源のリノベーションと新たな観光資源の活用
・酒田の「オリジナル・ストーリー」の確立
・酒田の個性を光らせる「サブ・ストーリー（新酒田物語）」の創出
・地域の総合力を活かす
・庄内地域が連携して取り組む広域観光連携
・酒田の観光の魅力の発信

その上で、オリジナル・ストーリーを、“交易”と“公益”を 2 つの柱として、「ＫＯＥＫＩ（交易と公益）のまち・酒田～港町文化とおもてなしのまち・酒田～」と設定し、酒田の「強み」である「歴史・伝統」「食・食文化」「自然景観」「公益と豪商」を 4 つのサブ・ストーリーとして設定しています。

なお、本戦略のスローガンは、「広めよう！“酒田自慢”　増やそう！“酒田ファン”」としています。

◆関連する主な取組み内容
・地域の商工関係者や市民を巻き込んで、地域の総合力を活かせる体制構築とプログラムづくり
・回遊性を高める観光ルートの創設（施策例として）
・街あるき観光の推進（施策例として）
・広域観光圏との連携　　・地域プラットフォームの創設

⑦　酒田市地域公共交通網形成計画

【公共交通　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 28 年 7 月策定の「酒田市地域公共交通網形成計画」（計画期間は、平成 28 年度から平成 32 年度まで）では、「人と地域の交流を支える公共交通～市民とともに、持続可能な交通網を形成し、コンパクト＋ネットワークを実現～」を基本理念とし、「将来のまちの姿を見据えた持続可能な公共交通」「地域の交流・発展を支える

公共交通」「市民協働で取り組み、利用者目線で考える公共交通」の３つを基本方針としています。

◆関連する主な取組み内容（重点事業）
・市街地における拠点の整備
　酒田駅前付近・中町・日本海総合病院を市街地における主要拠点として位置付け、乗り入れの充実や交通機関同士の乗り継ぎしやすさの向上、快適な待ち合い環境の確保等を図ります。
・主要拠点間の交通ネットワーク充実
・交通拠点における接続性向上
・待合環境の確保
・観光バス車両の新たな活用

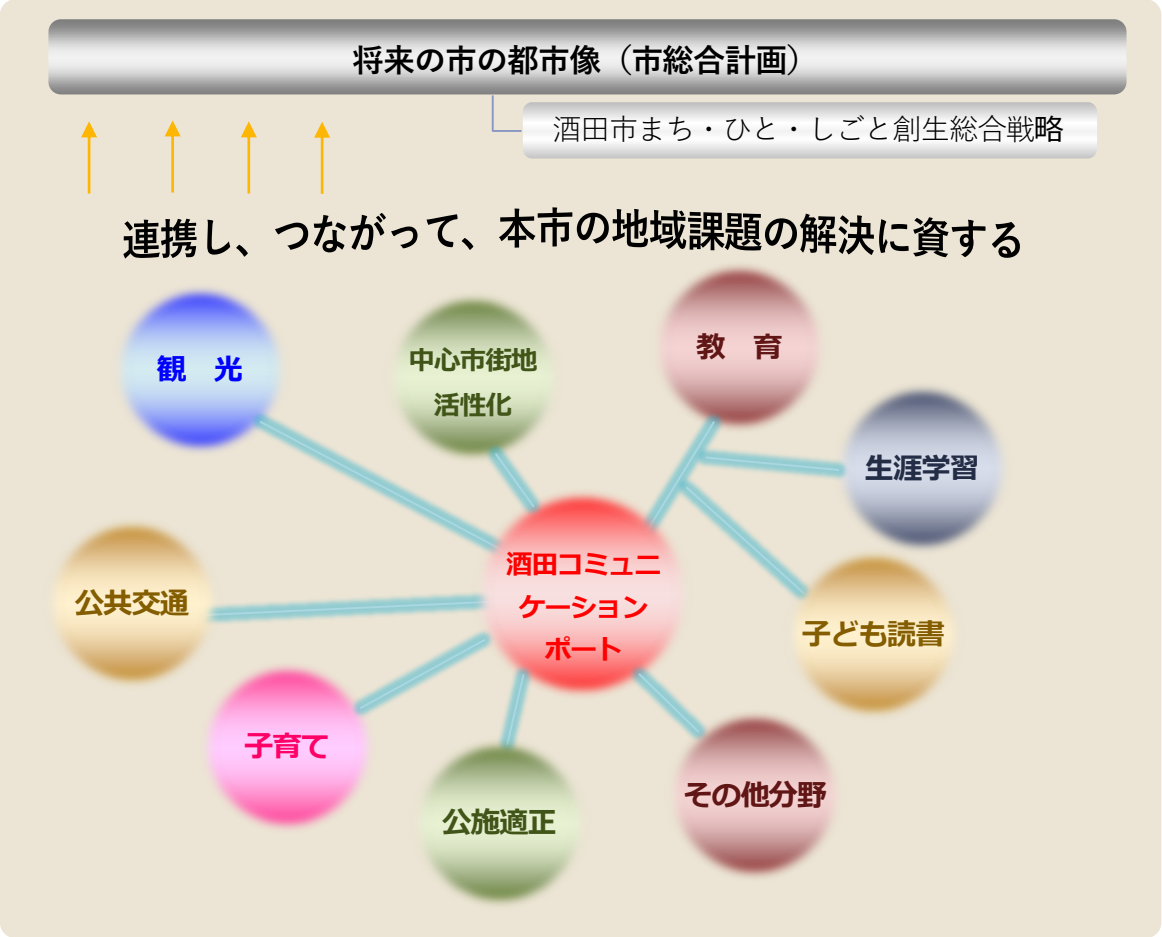
⑧　酒田市公共施設適正化基本計画

【公施適正　×　酒田コミュニケーションポート】

平成 27 年３月策定の「酒田市公共施設適正化基本計画」（計画期間は、平成 27 年度から平成 66 年度まで）では、「量的マネジメント－施設総量の削減－」「質的マネジメント－サービスの向上－」「財政的マネジメント－運営等の効率化－」を公共施設適正化マネジメントの３原則としています。

◆関連する主な施策方針
・施設の複合化・多機能化
・ひとや環境に優しい公共施設の実現
・公民連携等による経費の抑制

このほかにも、福祉・医療、スポーツや市民ボランティア、民間の経済活動等、様々な分野が活動されており、縦割りでない連携を図ります。もちろん、「選択と集中」の視点を持ちつつ、酒田コミュニケーションポートの運営を通じて本市の地域課題の解決に資していく必要があります。


将来の市の都市像（市総合計画）
酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
連携し、つながって、本市の地域課題の解決に資する
観　光
中心市街地
活性化
教　育
生涯学習
公共交通
酒田コミュニ
ケーション
ポート
子ども読書
子育て
公施適正
その他分野

4　本市の現状

(1) 地勢・交通

本市は、山形県の北西部、庄内地方の北部に位置し、北は秀峰鳥海山を望み、東は出羽丘陵を背にし、南はほぼ庄内平野の中央に達し、西は日本海に面しています。また、鳥海山から発する日向川、県を縦貫する母なる川最上川が、砂丘帯を貫き日本に注いでいます。酒田沖の県唯一の有人離島・飛島は、鳥海山とあわせ鳥海国定公園に指定されています。

交通では、空路は庄内空港が、鉄道はＪＲ羽越本線が通っています。また、高速道路は、日本海沿岸東北自動車道が、地域高規格道路では、新庄酒田道路が走っています。

酒田港は、県唯一の重要港湾、国際貿易港となっています。

(2) 人口

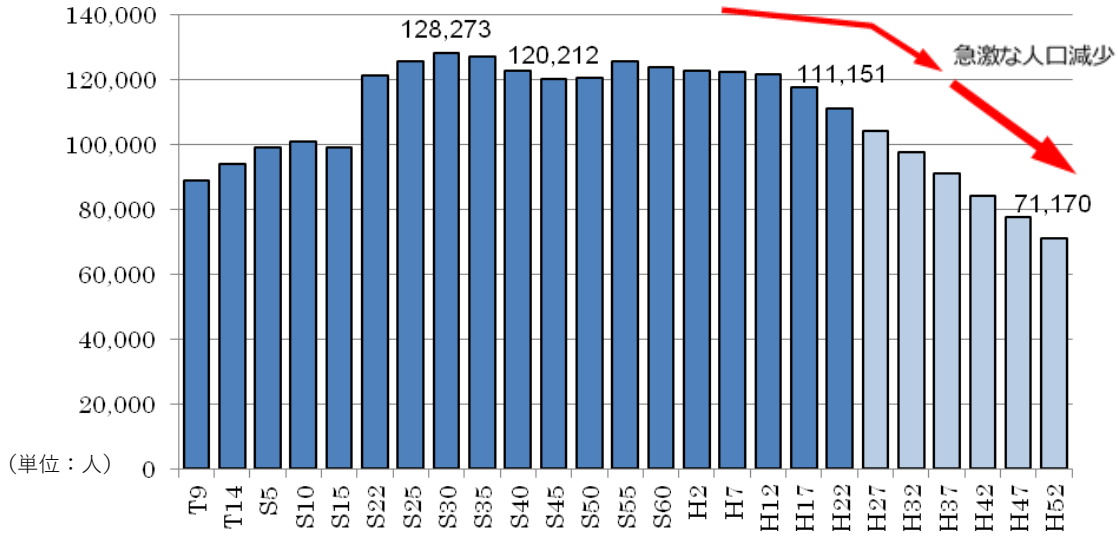
本市の人口は、昭和 30 年（1955 年）の 128,273 人をピークに減少し、昭和 50 年代に一旦回復したものの、その後は減少の一途をたどっています。

その中においても、酒田駅周辺地区を含む中心市街地内の居住人口は、全市の減少率よりも高い減少幅となっています。

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」の推計によると、平成 52 年（2040 年）には全市で 71,170 人となり、平成 22 年（2010 年）に比べると 36%の減少となっています。

本市が平成 27 年度に策定した人口ビジョンでは、平成 52 年（2040 年）に 86,000 人程度、平成 72 年（2060 年）に 75,000 人程度の人口が確保されるとしています。

【図２】本市の人口の推移



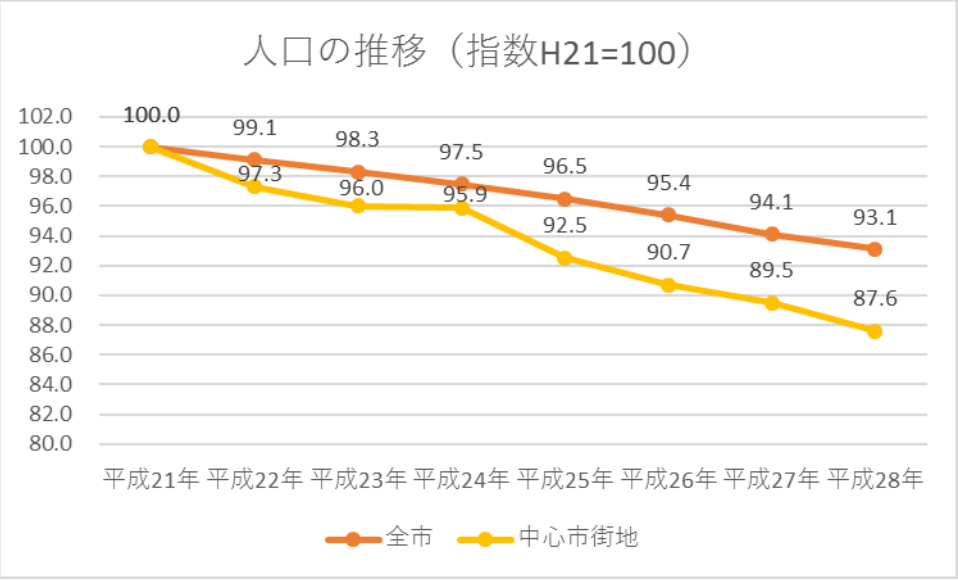
資料：「国勢調査」（総務省）、「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月、社人研）

【表１】全市と中心市街地の人口の推移

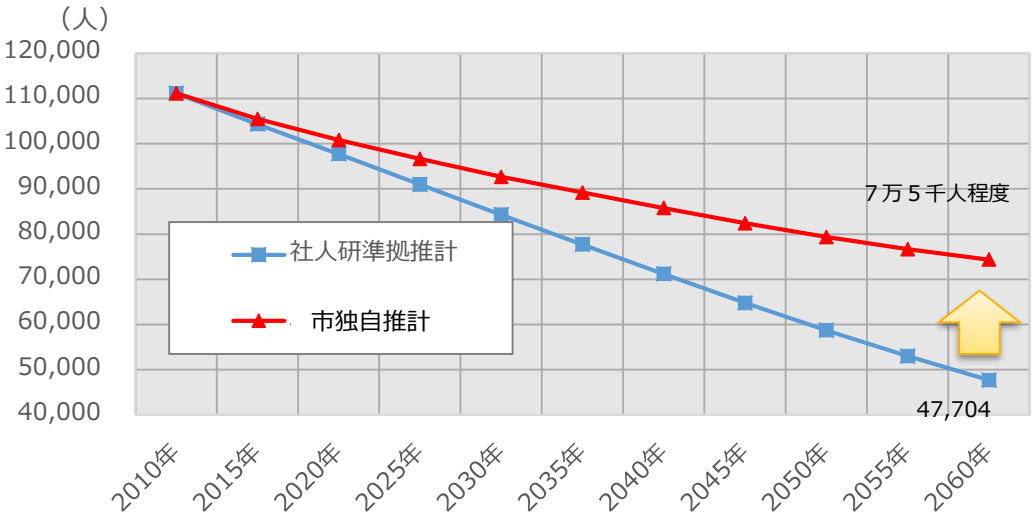
年次	全市		中心市街地		b/a(%)
	人口(a)	指数	人口(b)	指数	
平成 21 年	113,591	100.0	2,923	100.0	2.57
平成 22 年	112,587	99.1	2,844	97.3	2.53
平成 23 年	111,672	98.3	2,805	96.0	2.51
平成 24 年	110,771	97.5	2,803	95.9	2.53
平成 25 年	109,595	96.5	2,705	92.5	2.47
平成 26 年	108,335	95.4	2,651	90.7	2.45
平成 27 年	106,939	94.1	2,615	89.5	2.45
平成 28 年	105,708	93.1	2,562	87.6	2.42

資料：各年 9/30 現在の住民基本台帳

(注)中心市街地の範囲は、中心市街地活性化基本計画に定める範囲と同じ。



【図３】酒田市人口ビジョン（2015～2060）



(3) 歴史・文化

湊町・酒田の歴史は、徳尼公と秀衡の遺臣 36 騎により始まると言われています。

江戸時代には、河村瑞賢による西回り航路が開かれ、米の集積地・積出港となった酒田は大いに栄えます。北前船が往来する酒田には、全国から人や物が集まり、華やかな湊町文化が形成されました。

そうした繁栄の中から、「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」とまで謳われた豪商・本間家が生まれます。本間家三代当主・光丘は、防砂林の植林、庄内藩の財政再建、飢饉への備えなどに多大の功績を残しました。世のため人のためを思う「公益の心」は、今でも大切に受け継がれています。

近代に入ってからも、港湾都市、米どころとして知られ、戦後は昭和 51 年の「酒田大火」も乗り越えてきました。平成 17 年には、酒田市、八幡町、松山町、平田町の市町が合併し、現在の新酒田市が誕生しています。

本間家の栄華は、本間家旧本邸、本間美術館、光丘文庫などに偲ぶことができます。江戸時代から続く酒田まつり、料亭の文化にも、湊を通して栄えた酒田の歴史と文化が色濃く残ります。

(4) 産業・観光

平成 22 年国勢調査に基づく産業別就業人口割合は、第 1 次産業 8.3%、第 2 次産業 25.3%、第 3 次産業 63.2%となっております。

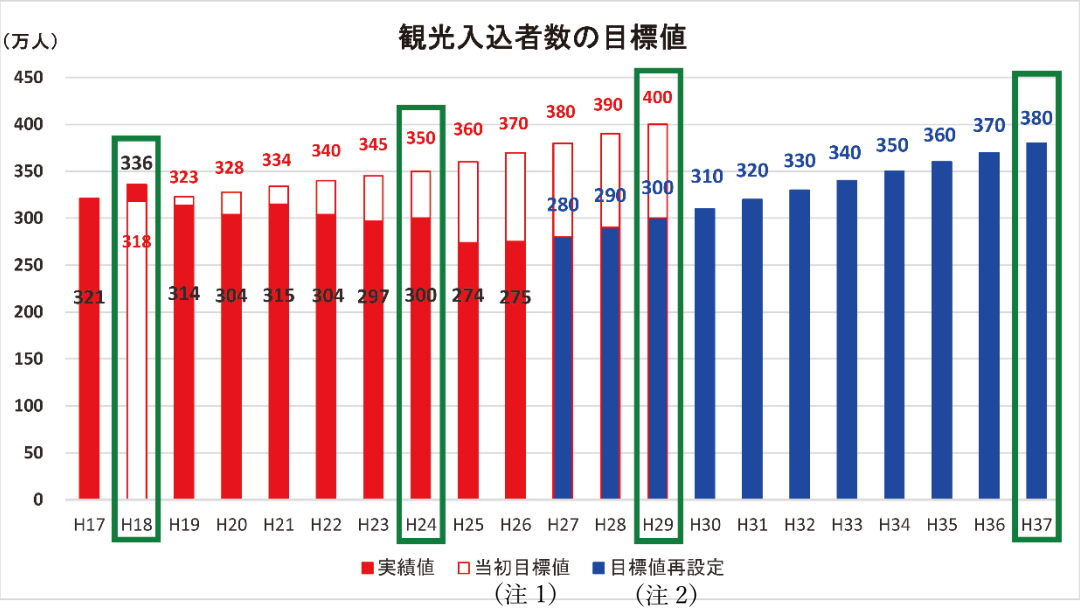
農産物、海産物が豊富で、庄内米、刈屋梨、メロン、いちご、平田赤ねぎ、寒鱈、紅えび、トビウオ、岩牡蠣、イカなど、特産品には枚挙にいとまがありません。全国的に高い評価を受けている日本酒や、酒田のラーメンも、酒田名物として全国に知られるようになりました。さかた海鮮市場、みなと市場等の市内各所で、これらの食を堪能することができます。

観光資源としては、本間家ゆかりの本間家旧本邸、本間美術館、光丘文庫（平成 28 年 10 月現在閉館中）のほか、湊の栄華が偲ばれる山居倉庫、独特の雅な文化が残る相馬楼や山王くらぶ、郷土の偉人を顕彰する土門拳記念館などがあります。

観光入込者は、平成 26 年時点では、平成 17 年に比べ、庄内地域全体は増加しているものの、本市は約 14%減少している状況です。中長期観光戦略に基づき各種施策を展開し、平成 37 年度には 380 万人を目指していきます。

平成 28 年 9 月には「鳥海山・飛島ジオパーク」の日本ジオパークネットワークへの加盟が認められ、ジオ・ツーリズムなどとともに「酒田の成り立ち」への注目が今後、高まることが期待されます。また、国内外のクルーズ客船誘致にも力を入れています。

【図４】観光入込数の目標値



（注１）酒田市観光基本計画（平成 20 年３月策定）による目標値
（注２）酒田市中長期観光戦略（平成 28 年３月策定）による目標値

(5) 教育

本市には、市立小学校が 25 校（飛島小学校が平成 28 年 10 月５日で休校）、市立中学校が８校、高等学校（県立及び私立）が６校（通信制を含む）、特別支援学校が１校、大学・専修学校が３校あります。そのうち、小学校の５校が改編の対象となっており、平成 29 年度には 22 校となる予定です。

平成 27 年５月１日現在では、児童・生徒数は、小学生が 5,125 人、中学生が 2,925 人、高校生が 3,102 人となっております。

社会教育施設・文化施設として、総合文化センター、出羽遊心館、公益研修センター、市立資料館、旧鐙屋、市美術館、酒田海洋センター、松山文化伝承館、松山城址館、ひらた生涯学習センター等です。

子育て支援関連施設としては、平成 28 年度では、認可保育所が 31 カ所、認定こども園が３カ所、幼稚園が６園あります。

(6) 広域圏形成

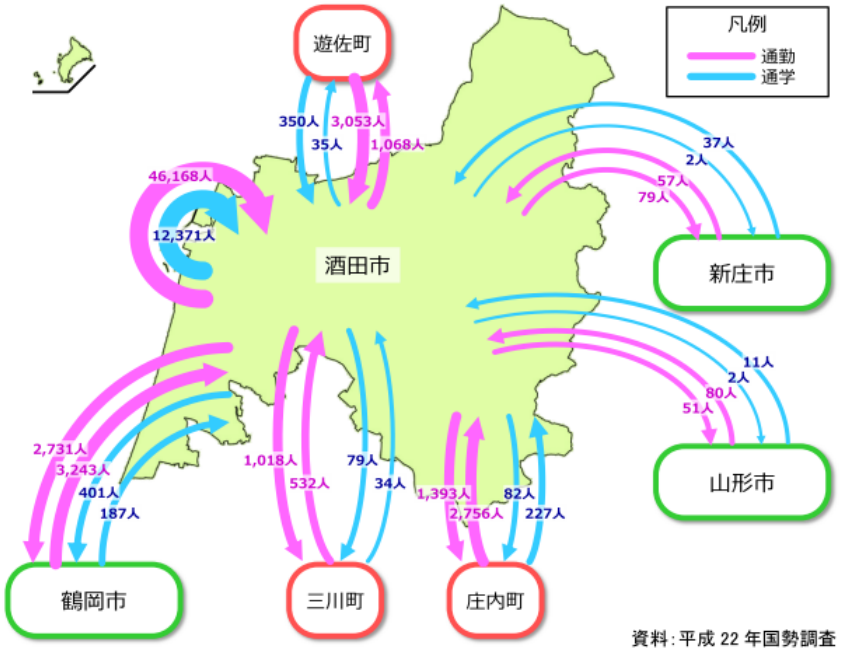
本市は、平成 27 年３月に三川町、庄内町、遊佐町とともに、「庄内北部定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。

本市は、「庄内北部定住自立圏」の中心市として、「定住に必要な都市機能の整備・提供や生活機能の確保・充実に努めるとともに、地域資源を活かした振興策に取り組み、圏域全体の活性化と圏域住民が安心して暮らせる魅力ある圏域の形成を図る」ことを役割としています。

観光圏としても、高速道路のミッシングリンクの早期解消や、羽越本線、陸羽西線の高速化、新幹線延伸等の可能性を踏まえながら、交流人口の拡大が想定されます。「鳥海山・飛島ジオパーク」における連携の推進も期待されています。

こうした生活圏や観光圏の拡大は、中心市街地の活性化にも大きく寄与することが期待されます。

【図５】通勤・通学流動



【表２】商圏

項　目	商品総合	外　食	レジャー・娯楽
第１次商圏 (吸引力 30％以上)	酒田市 遊佐町	酒田市 遊佐町 庄内町	酒田市 遊佐町
第２次商圏 (吸引力 15％以上 30％未満)	庄内町		庄内町
第３次商圏 (吸引力 5％以上 15％未満)		三川町 鶴岡市	三川町 鮭川村

資料：平成 24 年度山形県買物動向調査

5　市立図書館・酒田駅前観光案内所の現状・課題

(1) 市立図書館

現中央図書館は、昭和 57 年に総合文化センター内に設置されました。延床面積は 1,449.33 ㎡となっております。

市立図書館全体の主要統計指標の推移は、表 3 のとおりとなっています。

蔵書冊数は伸び、登録者数も大きな変化がないにもかかわらず、館外貸出人数及び館外貸出冊数は頭打ちであり、直近の 5 年間では減少に転じています。

同様に減少で推移しているのは、入館者数です。館外貸出者数と入館者数は、同じような下降線をたどっています（表 3 参照）。蔵書の増加が来館増に結びつかず、入館者の減少＝貸出者数の減少だとすると、図書館は来館者を増やすために、新たなサービスの開発等の方策を検討する必要があります。

人口規模の近い国内の 14 自治体の図書館統計と比較したのが、表 4 です。

本市は、蔵書密度（人口一人当たりの蔵書数）、貸出密度（人口一人当たりの貸出数）ともに平均を下回っており、本館の占有延床面積では最も狭くなっています。図書館サービスの充実に向けた方策の検討が求められます。

【表 3】市立図書館の主要統計指標の推移　　（単位：冊、人）

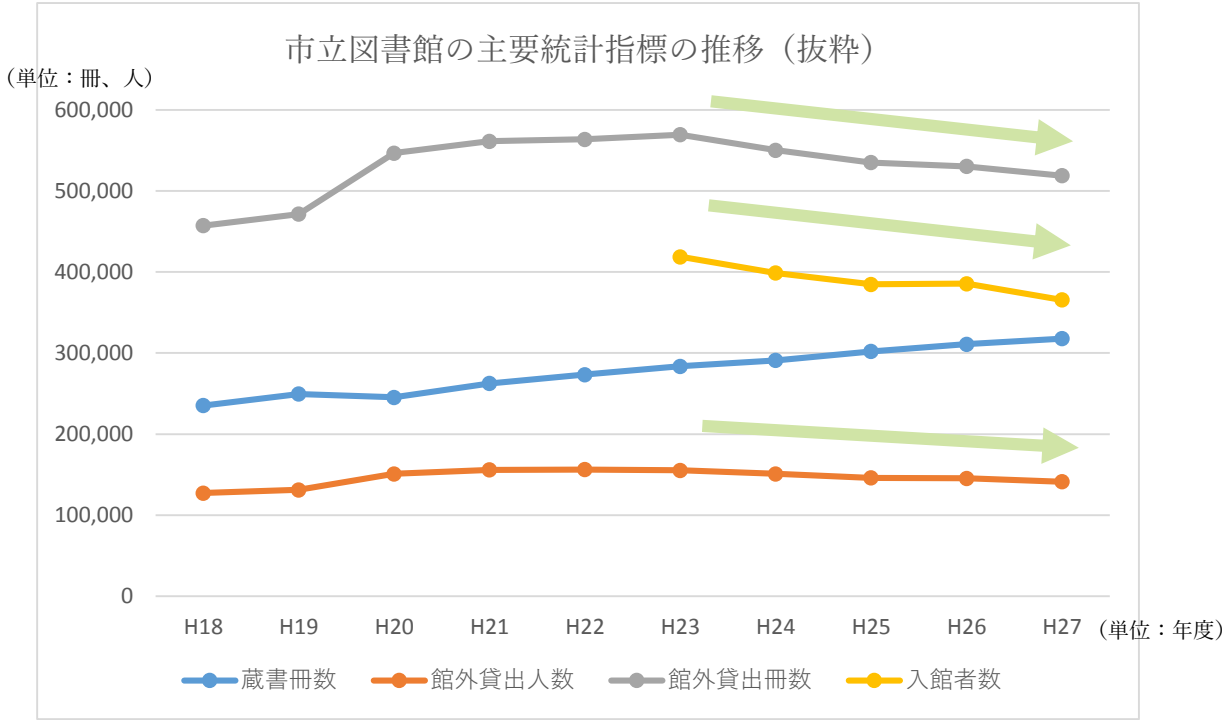
指　標	H18	H19	H20	H21	H22
有効登録者数	19,796	17,516	17,483	18,255	17,327
蔵書冊数	235,258	249,469	245,359	262,572	273,357
館外貸出人数	127,161	131,126	150,842	155,889	156,330
館外貸出冊数	457,324	471,662	546,768	561,434	563,882
入館者数	—	—	—	—	—
1 日当たりの館外貸出人数	370.7	386.8	437.2	450.5	458.4
1 日当たりの館外貸出冊数	1,333.3	1,391.3	1,584.8	1,622.6	1,653.6
1 人 1 回当たりの館外貸出冊数	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
人口 1 人当たりの館外貸出冊数	3.9	4.1	4.8	5.0	5.0
人口 1 人当たりの入館者数	—	—	—	—	—
登録率	15.3%	15.3%	15.3%	16.2%	15.5%
蔵書回転率	1.9	1.9	2.2	2.1	2.1

指　標	H23	H24	H25	H26	H27
有効登録者数	17,239	17,056	16,862	16,403	18,796
蔵書冊数	283,663	290,962	301,974	310,972	317,840
館外貸出人数	155,163	150,826	145,955	145,364	141,195
館外貸出冊数	569,505	550,436	535,245	530,560	519,019
入館者数	418,750	398,895	384,886	385,639	365,638
1 日当たりの館外貸出人数	447.2	439.7	431.8	422.6	421.5
1 日当たりの館外貸出冊数	1,641.2	1,604.8	1,583.6	1,542.3	1,549.3
1 人 1 回当たりの館外貸出冊数	3.7	3.6	3.7	3.6	3.7
人口 1 人当たりの館外貸出冊数	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9
人口 1 人当たりの入館者数	3.78	3.63	3.54	3.59	3.44
登録率	15.6%	15.5%	15.5%	15.3%	17.7%
蔵書回転率	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6

資料：図書館の概要（酒田市教育委員会発行）

（注 1）蔵書冊数、貸出人数及び貸出冊数には、光丘文庫分は含まれず、中央図書館、八幡分館、松山分館及びひらた図書センターの合計となります。

（注 2）入館者数には、松山分館及び光丘文庫分は含まれず、中央図書館、八幡分館及びひらた図書センターの合計となります。



【表４】人口近似自治体の図書館における蔵書密度及び貸出密度の比較

（単位：人、㎡、冊）

県	市	人口	本館専有延床面積	蔵書数	蔵書密度	貸出数	貸出密度
福岡県	筑紫野市	102,228	2,213	270,000	2.64	677,000	6.62
新潟県	三条市	102,489	2,233	342,000	3.34	461,000	4.50
大阪府	池田市	102,964	2,512	347,000	3.37	683,000	6.63
長野県	飯田市	105,549	2,507	737,000	6.98	770,000	7.30
岡山県	津山市	105,557	3,229	441,000	4.18	561,000	5.31
鹿児島県	鹿屋市	105,607	2,073	194,000	1.84	330,000	3.12
埼玉県	富士見市	108,469	4,464	486,000	4.48	609,000	5.61
石川県	小松市	108,980	1,840	250,000	2.29	389,000	3.57
山形県	酒田市	109,358	1,449	324,000	2.96	529,000	4.84
茨城県	筑西市	109,563	4,673	375,000	3.42	379,000	3.46
茨城県	取手市	109,595	1,528	341,000	3.11	658,000	6.00
千葉県	鎌ケ谷市	109,695	1,634	301,000	2.74	377,000	3.44
埼玉県	ふじみ野市	110,121	2,772	529,000	4.80	909,000	8.25
福岡県	春日市	111,702	2,632	309,000	2.77	792,000	7.09
平　均		107,277	2,554	374,714	3.50	580,286	5.41

資料：日本の図書館 2015（日本図書館協会発行）

（注 1）本市の本館は、中央図書館を指します。

（注 2）蔵書数及び貸出数は、それぞれ本館、分館等を含めた総数です。本市の場合は、光丘文庫分も含まれます。

(2) 酒田駅前観光案内所

現在の酒田駅観光案内所は、ＪＲ酒田駅構内の一角、8.9 ㎡を賃借して設置されており、市が（一社）酒田観光物産協会に委託して運営されています。

案内件数などの推移は、次のとおりです。

年 度	酒田駅観光案内所利用数（単位：件、人、台）				予約ガイド利用数	
	案内件数	案内人数	内外国人	自転車貸出台数	団体数	団体人数
H24	11,936	16,826	213	4,710	110	2,519
H25	11,092	15,758	220	4,080	168	3,255
H26	12,447	17,211	313	5,027	131	2,229
H27	12,297	16,857	401	4,900	124	2,712

案内件数は、ほぼ横ばいですが、外国人への案内が増加しています。しかし、現

在は外国人観光客への対応は困難であり、窓口の狭隘さ、運営を実際に担っているガイド協会会員の高齢化などが課題となっています。